

2016年4月28日
東京ガス株式会社

2016年3月期 決算説明会

主なQ&A

Q 1 : 2016年度見通しの利益水準だと2020ビジョンにおける利益イメージと相当乖離がある。電力事業・海外事業の状況から見ても、ビジョンの達成は難しくなっているのではないか。

A 1 : ビジョンで掲げた基本的なコンセプトに変化は無い。長期的には首都圏の人口減少が見込まれる中で持続的に成長するためには、国内ガス事業だけではなく、総合エネルギー事業化・グローバル化を進めていかねばならない。16年度収支見通しは厳しいが、将来の成長のための取組みを着実に進める正念場の年だ。

Q 2 . 電力小売り事業について、足元の実績に対する評価と今後の見立てを教えてください。

A 2 . 低圧分野における新電力No.1を目指すべく、2016年度の電力お客さま件数目標40万件に向け、一定程度進捗している。立ち上げ期なので、お客さまを獲得するための経費が増加するが、顧客基盤が積みあがってくれば、将来的な利益成長が期待できる。

Q 3 : 2016年度の年金数理差異償却負担額が大幅に増加する理由を教えてください。

A 3 : マイナス金利政策導入による国内金利の低下により、年金運用では債券価格上昇が収益性向上に貢献して、目標リターンを上回った。一方で、割引率が低下したことで、退職給付債務が増加したことにより、数理差異償却額が大幅に拡大した。

以 上